

## 市場経済との親和性を高める人民元 ～緩やかに進む人民元安が意味するもの

中国人民元は、2010年半ばから、毎日設定される基準値(対米ドル)からの乖離(変動幅)を一定範囲に抑える「管理変動相場制」が採用されています。この変動幅は近年、拡大が図られ、また、基準値の算定方法も見直されるなど、人民元を市場経済に近づける動きが見られます。こうした人民元の改革は、過去において、市場の混乱につながるケースがありました。

2015年8月、中国人民銀行は基準値(対米ドル)の算出方法を変更し、基準値を一日で1.86%切り下げる(通貨安)調整を行ないました。その結果、その後の3日間で人民元が約3%と大きく下落しました【A】。また、2016年1月にも基準値が比較的大きく切り下げられると、中国経済に対する不透明感が高まると共に、更なる通貨切り下げ懸念も起こり、金融市場は世界的に混乱を来しました【B】。

自国通貨の切り下げは、輸出産業に恩恵となる一方で、輸入価格の上昇や、資金の国外流出を招く恐れがあることから、通貨政策には慎重な対応が求められます。中国のGDPに占める輸出(産業)はさほど大きくないため、通貨切り下げのメリットは小さいと考えられるものの、2015年夏以降の人民元切り下げは、米金融政策の転換に伴ない、2014年秋から半年程度続いた米ドル高に連動する形で、相対的な人民元高となったこと【C】に伴う弊害(輸出不振など)を是正する意図があったと思われます。

中国当局は海外送金などに規制を設けており、資金流出に対して警戒を続けていますが、人民元の相場は、昨年の米大統領選以降の米ドル高に追随せず、緩やかながら人民元安基調を維持しています。こうした人民元安の背景には、中国当局が輸出の恩恵と資金流出の両方を見ながら、人民元の管理を緩める姿勢を取りつつあると考えることもできます。この先、中国政府が市場経済を取り入れ、一足飛びに「変動相場制」を採用するとは考えづらいものの、変動幅の更なる拡大など、市場経済に寄り添う姿勢を強めるならば、中国の投資先としての魅力も高まると期待されます。

### 主要通貨(対米ドル)の推移



(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記は過去のものであり、将来を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。